

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 8 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200478		
法人名	(有)ステア		
事業所名	グループホーム 湯来		
所在地	〒738-0512 広島市佐伯区湯来町白砂423 ☎0829-40-5353		
自己評価作成日	令和2年7月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3490200478-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号
訪問調査日	令和 2 年 8 月 21 日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当施設は山間部にあり空気がきれいで春にはうぐいす、初夏には蛍が飛んでいます。 草刈りやとんど、夏祭りなど地域行事にも参加させていただいております。 その他外出支援での買い物や散歩、日光浴もされています。 生活保護法指定居宅介護事業者 生活保護法指定介護予防事業者</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム湯来は、職員は日頃から利用者や家族、訪問者を笑顔で挨拶する事等を心掛け、それぞれ良好な関係を築いている。家庭的な雰囲気の中で、利用者と家族との信頼関係を築きながら、個々の生活を重視し、出来る事を共に喜び合い、穏やかな生活が送れるよう支援している。又、地域の人々と豊かな関係を保ちながら、住み慣れた地域の中で生活が出来るように、又、認知症への理解が深まるように取り組み支援している。家族宛に毎月、個人用の事業所便り（写真・利用者の状況・行事等）を送付したり、面会時には家族が気軽に意見が言える雰囲気作りをして、家族は不安な事や心配事を率直に話される等、信頼関係を築いている。利用者が土に親しみ、季節を五感で感じてもらえるように、花壇や畑を利用して、季節の花や野菜作りに取り組み、心身の活性化が出来るように取り組んでいる。1日に1回以上は大笑いをし、利用者と職員は笑顔の絶えない毎日を過ごしている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 Bユニット					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「自然・安心・快適」を理念に掲げ利用者様のことを理解し尊重した介護の支援を心掛けている。	事業所理念「自然・安心・快適」を玄関と事務所に掲げ、毎日の出勤時と申し送り時に、黙視で確認し共有を図っている。管理者は、地域の中で利用者が自分らしく過ごしてもらうように職員に話している。毎月のユニット会議の中で、利用者が笑顔で暮らしているか、課題にぶつかった時には、自分の家族だったらどうするかを話し合い、共有して理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事などに利用者様と一緒に参加し、職員は施設周辺などの清掃などを行っている。	自治会に加入し、職員は年1回、道路の清掃や溝掃除に参加している。利用者は買物時や散歩時には、地域の人と挨拶を交わし、近所の人から花や野菜の差し入れや高校生の和太鼓部の演奏がある等、日常的に交流している。地元で出来たお米を購入し、食事で頂いている。地元の企業で、木材加工・こんにやく作りの工場と連携して、介護についての情報等交流している。コロナの感染予防もあり、現在は交流出来ていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年3回地域の草刈りや掃除、イベントなどに参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月ごとに運営推進会議を行い、事業所での状況を報告している。(コロナ禍の為、今年度になってからは中止となっています)	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員・薬局・美容室・管理者・事業所職員が参加して、利用者の状況や活動状況、行事予定、自己評価や外部評価報告、職員の研修報告、事故・ヒヤリハット報告等を行い、意見や要望を聞きし、出た意見については会議で検討し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険認定調査等を申請したり市町村担当者に手続きなどで分からないことがあればすぐに連絡を取り指示を仰いでいる。	市担当者とは、分らない事や困った事があれば、電話や直接出かけて、情報交換や運営上の疑義について相談し、助言を得る等、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換をして、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者様の心身の状態を正確にアセスメントすると共に、現場の実態を把握した上で、身体拘束を必要としない状態を作り出す方向を追求していく。尚、一時的に拘束を行わなければいけない事例が発生した場合には、ご家族様と相談し、同意を求める書類を作成している。	身体拘束廃止委員会を開催しており、何が禁止されているのか(車椅子利用者のベルト等、拘束用具についての検討)理解出来るように定期的に研修を行っている。職員は、身体拘束の内容や弊害、虐待等について正しく理解している。玄関の施錠はしないで、外出したい利用者があれば、納得のいくまで一緒に出かけて、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になる場合は、管理者が指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	利用者様の日常の様子や入浴時での身体確認、利用者様からの訴えに耳を傾けるようにし、利用者様、ご家族様との情報共有に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	各種関係機関と連携し、包括的な支援を行う佐伯区生活課への相談業務を行う。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が、ご家族様に説明し理解を図っている。また、改定時にはご家族様の同意を得る。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様に状況を説明し選択を求める。請求時に利用状況を書面にて説明し、意見を求めている。	利用者の思いを、日々の関わりの中で聞き取り、要望が実現出来るよう努めている。又、運営推進会議には、全家族に参加を呼び掛けている。面会時、行事時、請求書送付時に手紙を書いて、日頃の様子(写真添付)を伝える等実施して、意見・要望を聞き、頂いた意見は職員会議で共有し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの日程を設け職員からの提案や改善策を聞き入れ、代表者へ報告し検討している。	管理者は、月1回のミーティングや、毎日の日常業務の中で、日々意見を聞く事に努めている。日頃から、管理者の方から職員に言葉をかけて、意見が言い易いように配慮している。社長の2ヶ月に1回の個人面談が有り、意見や要望を聞いている。それらの意見は、検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者自ら現場に入り、職員個々の動きを把握し、共感して協力的に動く事で職員の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員間で疑問があれば話し合い、お互いの知識を交換し合うことで技術向上させている。研修の機会を設け参加することにより知識を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会・相互訪問等の活動は現在出来ていないが、電話連絡などの際、情報交換することでサービスの質の見直しを行っている。(今年度はコロナ禍の為中止となっている)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを密にとり、本人の趣向やなじめる環境の情報を聞き入れ安心して過ごせるようご本人とのコミュニケーションも大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前の面会などを通して必要な介助の度合いや認知症の進行度合いを把握する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前にミーティングで職員が情報を共有し話し合う。入所判定委員会を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お盆拭きや洗濯物干し、たたみ等の出来ることは声掛けにて手伝っていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な物品や対応があればご家族様に連絡・相談する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会があれば居室にてゆっくり過ごして頂く。無理のない外出や外泊のお願いや地域行事への参加等。(今現在は面会自粛中)	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人、知人の来訪がある他、電話での交流を支援している。面会時にはゆっくりと過ごして頂けるよう、居室でお茶を飲みながら寛いで頂いている。事業所の企画の行事と一緒に参加して頂いたり関係継続の配慮をしている。家族の協力を得て、買物、墓参、外出、外食、一時帰宅等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り、利用者様の会話の手助けをするようにしている。トランプ等している利用者様の所に、できる方に声掛けをして参加してもらったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	電話対応などで様子を伺ったりしている。不便があればいつでも利用してもらえるように伝えたりしている。年賀状を送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外への散歩へ職員付添で行ったりしている。歩行の不安定な方は職員介助または車いす使用にて散歩を行っている。	職員間で利用者の生活の様子や、身体状態の情報を交換しながら、本人の希望を汲み取れるように関わっている。入居後は、日々の関わりの中で、利用者の発した言葉や表情、対応を介護記録に記録して、思いの把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今迄の情報を確認して把握している。コミュニケーションが可能な利用者様には直接聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	足のむくみ等のある方はマッサージや歩行の声掛けを行い見守りにて歩行やその場での足踏み運動等を行っていたいしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングを行いそれぞれの意見を反映した現状に即した介護計画を作成している。スタッフミーティングや申し送り等で出た意見等を検討し現状に合ったケアを実践している。	計画作成担当者と職員を中心に、月1回カンファレンス・モニタリングを実施し、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師・管理者・職員の意見、「経過記録・申し送りノート」を参考にして、介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の状態や家族の要望に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践、結果、気づきを記入し職員間で情報を共有し実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族様の状況、ニーズに対して柔軟に対応するように取り組んでいる。個々に合わせ、その時の状況に合ったケアを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事に参加し、楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族様のご希望を重視し、ご家族様の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の希望する、かかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、1週間に1回往診がある。訪問歯科は、要望に応じて往診がある。訪問看護師は、毎週水曜日に健康観察に来ている。他のかかりつけ医や他科受診も含めて、事業所が受診の支援をしている。家族には、受診結果を電話や面会時に伝えている。夜間や休日・緊急時には、協力医療機関・訪問看護師と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	パソコン・連絡ノートでの申し送り。経過記録等を利用し常に報告・連絡・相談等を介護職員や訪問に情報を共有し対応を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護職員を通し職員間で常に状況を把握し相談・対応できるようにしている。入院時どのような対応をされているのか、支援記録したものを共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医との連携を取り合いながら主治医の指示のもとご家族様への説明・今後の対応を伺い、支援できるようにしている。	入居時に重度化した場合に、事業所で出来る対応について契約時に家族に説明をして同意を得ている。重度化した場合は、家族の希望を確認した上で、医師・看護師・管理者と相談し、今後の方針について検討し、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決め、関係者や全職員が共有し、支援に取り組んでいる。希望があれば、看取りの支援に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故が発生した時に、まず管理者への報告をし、BT測定などのチェック等(ご本人様の状態の確認)の後、管理者の指示のもと行動しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に計画書をもとに消防訓練を行っております。地域との関わりあいを持っている。	年2回、避難訓練を開催していて、その内1回は消防署の協力を得て、昼夜の火災・風水害・地震を想定した、通報訓練・避難訓練・避難経路の確認、消火器の使い方について、利用者と一緒に実施している。ケアマネージャーとも連携し、防災の研修を行っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として尊敬し尊厳を守り、身の回りのことをお世話させて頂いております。言葉使いも十分気を付けて接するように努めています。	職員は内部研修で学ぶと共に、利用者の尊厳を守る事に、常日頃からの指導を通して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない、言葉使いや対応をしている。利用者ひとり一人が人生の先輩である事を考慮し、敬意をもった言葉かけで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話の中でご本人様の思いや望みなど話しやすい環境を整え利用者の思いを実現できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り利用者のペースで動いて頂き、無理なことはさせない。ペースを乱さないように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者には美容師が訪問しカットして頂いている。衣替えを職員が季節によって替え、男性の髭剃りも職員が声掛けにてして頂き剃り残しは職員が介助にて対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様毎に食器等を工夫して提供している。食後は下膳をして頂いたり、お盆拭きをして頂いている。	3食とも配食業者を利用して、ご飯は事業所で炊いている。食べ易いように、きざみ食やソフト食・とろみ食等、1人ひとりの状態に合った形態や、自助具・食器の工夫をして、1人で食べられるように支援している。利用者は、テーブル拭きやお膳拭きを行い、出来る事を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者一人一人の毎日の体調管理を行い、記録を取り、食事量＋水分摂取量に気を付けて提供できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身で行える利用者様は声掛けを行い、そうでない利用者様は介助や声掛け、見守りで口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的に声掛けを行い、トイレ誘導し排泄を促している。	排泄チェック表を活用して、利用者の排泄パターンを把握し、1人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人一人の周期を確認し、主治医・訪看に相談をし指示を仰いで便秘薬などを提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回のうち2回を実施し、見守りにて入浴されている。ご自身で入れない利用者様は声掛けをしながら全介助にて気持ちよく入浴して頂いている。入浴後には水分摂取をして頂き体調管理を行っている。	利用者の状況に応じて、順番や湯加減等、本人の希望に合わせて、ゆったりと入浴出来るように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴・シャワー浴・部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間、定期順室し安全を確認している。希望により昼食後には居室に戻っていただき、休息している。室温湿度なども確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問看護や看護師にほうこくしじを仰いでいる。服薬の情報をファイル化し職員がいつでも確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々のコミュニケーションからの情報を得て行事・レクリエーションなどに取り入れ、楽しんでいただけるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域の方の協力のもと行事などに参加させて頂いている。ご家族様との外出の際には、ご家族様のご協力のもと実施されている。今年度はコロナ禍の為実施できていない。	周辺の散歩や外気浴、スーパーに買い物に行く、季節の花見(湯来温泉)、近くの公園に散歩や日光浴、家族の協力を得て、法事への参加、墓参り、外食(家族と病院に受診に行った時)、一時帰宅、外泊等、1人ひとりの利用者の希望に添って、出かけられるように支援している。現在はコロナ感染予防の為、外出は控えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者様からの希望があれば自動販売機からジュースなどの購入をされている。散髪代などはご自身にてお支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者から希望があればご家族様了承のもと電話で話されている。手紙に関してはいつでも対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとにホールの飾りを変えたり、居心地よく過ごすために清潔を保持し、気温に応じての室温・湿度を配慮して心掛けている。利用者様の出来る範囲で手伝って頂き、ホールの飾りを作っている。	季節感を味わって頂く為に、ホールに花を飾ったりしている。テレビの前にはソファが配置してあり、利用者は思い思いの場所で過ごす事が出来ている。台所からは、調理の音や匂いがして、生活感を感じる事が出来ている。壁面には、職員と一緒に作成した季節の壁面飾りや、紙細工の自作品を飾っている。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室とホールを自由に行き来できるようにし、席の配慮をすることで利用者様同士のコミュニケーションがスムーズにいくように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様のご要望を聞き入れ、必要なものはご家族様に連絡し持参や送付して頂いている。居室内の配置は過ごしやすくにご本人様・ご家族様と相談しながら決めている。	自宅で使用していた馴染みのある、テレビ・ラジカセ・机・椅子・筆筒・衣装ケース・洋服スタンド・クッション・時計・ぬいぐるみ・雑誌等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、家族写真や生花を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様個々の身体状況を把握し職員間で情報共有し自立支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営 Cユニット					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念である「自然・安心・快適」を掲げ各職員が利用者様を尊敬や理解する気持ちを共有することに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	地域の清掃や草刈り等に参加し、地域との行事参加案内を呼びかけ交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員で地域周辺の清掃ボランティアを行っている。地域行事にも積極的に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度定期的開催し、ご家族様・利用者様・地域民生委員・町内会・地域包括支援センター・施設職員が参加している。会議では施設の現状報告や参加者からの質問・意見交換を行っている。(今年度はコロナ禍の為実施できていない)		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の案内・報告書を提出している。他、相談等を佐伯区役所の介護保険課に赴き行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月、職員で身体拘束についてのマニュアルのもと、ミーティングを開催し、各自周知するようにしている。尚、一時的に身体拘束を行わなければならない事例が発生した場合にはご家族様と相談し、同意を求める書類を作成する。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	広島市ホームページの虐待防止マニュアルをもとに施設職員研修を行い、日常の様子や入浴時の身体確認をし、職員間で情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設の玄関に成年後見人制度のパンフレットを設置している。また、ご家族様からの相談も受け、佐伯区役所生活課や地域包括支援センターと連携を密に取りながら権利擁護を学ぶ機会を作っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に、契約書・重要事項説明書をご家族様に順次ゆくり、丁寧に説明している。改定時にはキーパーソンに理由説明を行い、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に苦情用紙及び苦情意見箱を設置し、ご家族様のご来所された折にはご意見・ご要望等の確認をさせて頂いている。ご利用者様からのご意見・ご要望もできるだけこたえるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度の各ユニットでのミーティング・全体ミーティングを行い、職員間の意見交換の場を設けている。新型コロナの影響により3月～6月の実施は中止している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が個人面談を行い、要望や意見を聞き、改善・向上について話し合いの場を持っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人面談にて希望を聞きながら研修案内の紹介を行っている。施設内研修を行い、個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修等に参加し、同業他社様との交流を行い、情報交換等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居利用直後にご本人様とのコミュニケーションを取り、過去の人生やご家族様の構成の詳細を把握し、コミュニケーションの中での信頼関係を作れるような対応や安心感を確保できるような表情・声のトーンなどに注意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会等にご来所されたご家族様に積極的に挨拶や会話をすることができた。常に、当施設に任せて安心頂けるような、ご家族様への対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様とのコミュニケーションの中で、見極めと行動・言動に注意しながら対応に努めている。報告・連絡・相談等を徹底して連携をとる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様とのコミュニケーションの中での現在の時間や天候の情報などを意識的に伝え、季節感や1日の中で今がどんなことをすべき時間なのかを伝える。この中でみんな生活しているという事を理解して頂くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様に対して細かく、報告・連絡・相談をし、ご本人様の意向なども伝える事でご本人様とご家族様の関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者とのコミュニケーションの中でなじみのある人や場所について聞き、家族から情報収集し利用者本人に発信するようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	各利用者様同士が絡んで笑顔になっていただけるよう、各テーブル内の会話やレクリエーションを楽しんでいただくように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様に定期的に電話や手紙を出し、現在の様子をうかがっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のご本人様との関りや会話の中から意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人様やご家族様からの情報を得てこれまでの生活を把握するよう、必要であれば過去にご利用されていた事業所等へ連絡を取り、確認を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタルの状況や申し送りや他職員への利用者様の状況確認などから、会話や介助のスピード感を変えたり、その日の状況に応じて対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様ご本人が日々どのような行動パターンであるかや、声掛けの仕方での反応を注視し、気持ちの理解をすることを務めた。気づきの報告を職員にすることを最近では徹底するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を細かく記録しパソコン内の申し送りや共有ノート、掲示板を利用し職員間での情報交換を行い、ケアプランの確認を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様からの要望に対してなるべく即座に回答できるよう、管理者や他職員に相談しつつ対応している。ご家族様のご要望に関しても同様に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナの関係で実際に地域イベントへの参加はできていないが、地域とのつながりの重要性は理解している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療の際に他の職員がどのようにかかりつけ医に情報提供をして、今後の対応の指示を受けているのかを把握し、受診時にはできるだけ多くの情報を持参し適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度訪問看護に来て頂き、ご利用者様の様子を報告・相談している。必要に応じて主治医の指示を受け対応し記録に残している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に職員が定期的に伺い、入院先の病院様より情報を得ている。退院後に必要な栄養管理などの指導も受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の所見・意見をご家族様と共に聞き、その後ご家族様の想いを聞きながら施設でできることを説明し、ご家族様と方針を決めていくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応や応急手当の研修を行い、緊急時の連絡先連絡網、マニュアルを見やすい場所に貼り、緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回定期的に消防訓練を行っている。避難訓練には利用者様も参加して頂き、避難経路の確認や避難場所を確認している。地域との交流も図っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様に対する声掛けの仕方や言葉使いに注意を払いミーティングを行い周知徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	着替えなどする時、ご本人様と一緒に強い強制的にならないように配慮している。水分補給の時間は“コーヒー”、“お茶”を選んでいただき、その日の希望を伺って提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レクリエーションや体操を行う場合、出来るだけ声掛けを行うが強制はしない。食後もTVを観たり、居室に戻られたりご自由に過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴時以外でも、汚れ等がある時には、常に声掛けをし清潔にして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事前後のテーブル拭きやお盆拭きを声掛けにて手伝って頂いている。一部の利用者様にはご自身で下膳を依頼している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	飲食の確認は常に行っているが、自力摂取できない利用者様にはエンシュア缶やスポーツドリンク等を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアを声掛けにて行っている。ご自身で口腔ケアの実施が困難な場合には介助を行い、義歯の確認も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立でのトイレ利用の利用者様には排便の有無を伺い、状態の確認も行っている。声掛けの必要な利用者様には定期的に声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	車椅子の利用者様にはしっかりと手足を動かして頂くように声掛けをし、便秘の場合には医師の処方にて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	拒否のある利用者様には他の入浴日にして頂き清拭・陰洗を行い清潔を保持している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中はホールでくつろいで頂いている。1年を通して施設内温度を確認し、季節を感じられるよう時折外気を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	常に連絡事項を職員が確認している。主治医往診時、訪問日には相談・指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>ご家族様からの情報や利用者様からの要望を聞きレクリエーションや行事を楽しんで頂けるよう努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>地域や近隣の方に協力を頂き庭園や施設周辺の散歩を実施している。ご家族様との外出もご家族様のご協力のもと行っている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご家族様や後見人様の協力のもと、小遣い程度のお金を所持して頂き、必要な時にはご自身で支払っていただくようにしている。トラブルが起きないように窓口は管理者が行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>事務所内での電話や手紙等のやり取りは利用者様、ご家族様間で行われている。電話についてはご家族様と前もって相談した後に使用して頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用部には行事やお知らせ等の写真や案内を貼り、ホールには利用者様や職員がレクリエーションにて季節ごとに作成したものを飾っている。環境衛生には特に気を配り、チェックや確認を欠かさず行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>座る位置を工夫し気の合うもの同士で会話ができるよう配慮している。利用者様が孤立しないよう職員が間に入り場をつなぐようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>安全面を考慮し、ご家族様やご本人様と相談しながら馴染みの物や写真を飾り心地よく過ごせるよう工夫をしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者様同士で洗濯物を畳んだり施設内の清掃にも参加して頂く。職員は安全面には注意するよう心掛けている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム湯来

作成日 令和 2 年 8 月 22 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	27	利用者に対する情報の共有	直ぐ	スタッフミーティング パソコンの申し送り、 ノートの活用	1ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。